

2. 青少年のスポーツ実施人口

青少年の種目別スポーツ実施人口の推移を表Ⅲに示した。年1回以上の実施人口は、2001年調査では「水泳」(409万人)が最も多く、次いで「バスケットボール」(394万人)、「サッカー」(339万人)であった。2009年調査では「サッカー」(321万人)が最も多く、「バスケットボール」(319万人)、「バドミントン」(277万人)と続き、2001年からの8年間ですべての種目において実施人口は減少している。

週2回以上の実施人口では、2001年と2009年ともに「サッカー」「バスケットボール」「野球」が上位にランクインしている。2001年調査では「バスケットボール」(109万人)が最も多く、次いで「サッカー」(93万人)、「野球」(90万人)であったのに対し、2009年調査では「サッカー」(129万人)、「バスケットボール」(125万人)、「野球」(115万人)の順であり、近年「サッカー」は青少年に最も人気のある種目となった。

2001年からの8年間の推移をみると、年1回以上の実施率の減少が顕著な種目は「スキー」「水泳」「ボウリング」「ゴルフ(コース)」である。一方、週2回以上では、「ゴルフ(コース)」「水泳」以外の種目には、減少傾向はみられない。つまり、青少年においては、不定期的な実施者を含む年1回以上の実施者は減少しているが、週2回以上の定期的実施者は増加傾向にある。その傾向は特に、「バドミントン」に顕著にあらわれ、年1回以上の実施人口の減少は大きく、327万人から277万人と50万人減少しているが、週2回以上では34万人から54万人へと20万人増加している。

表Ⅲ 青少年（10代）の種目別スポーツ実施人口の推移

(万人)

	実施頻度	2001年 (n=1,358)	2009年 (n=1,989)
ボウリング	年1回以上	338	233
	週2回以上	0	1
ゴルフ(コース)	年1回以上	45	31
	週2回以上	3	2
水泳	年1回以上	409	255
	週2回以上	33	26
バドミントン	年1回以上	327	277
	週2回以上	34	54
登山	年1回以上	85	62
	週2回以上	0	1
サッカー	年1回以上	339	321
	週2回以上	93	129
野球	年1回以上	282	271
	週2回以上	90	115
卓球	年1回以上	267	223
	週2回以上	32	44
スキー	年1回以上	190	118
	週2回以上	1	4
テニス(硬式)	年1回以上	108	84
	週2回以上	20	21
ソフトボール	年1回以上	124	112
	週2回以上	14	30
バレーボール	年1回以上	279	222
	週2回以上	71	85
バスケットボール	年1回以上	394	319
	週2回以上	109	125

注) 成人の2010年調査における実施率(年1回以上)の上位順で表示

笹川スポーツ財団「10代の運動・スポーツ活動に関する全国調査」(2001~2009)より作成